

中央家畜衛生広報

福島県中央家畜保健衛生所

〒963-6311 石川郡玉川村大字岩法寺字新屋敷114-12

TEL 0247-57-6131 FAX 0247-57-6144

E-mail kaho.lhs08@pref.fukushima.lg.jp



令和7年1月号

定期報告の提出

家畜伝染病予防法第12条の4に基づき、家畜の所有者は**毎年**、家畜所有者の基本情報、家畜の頭羽数について県知事(家畜保健衛生所)へ報告することが**義務**付けられています。様式が変更になっておりますので、**必ず同封された様式にてご報告ください**。また、報告様式が郵送された方で廃業等により家畜の飼養をしていない場合は当所にご一報ください。

以下に該当する所有者は、飼養衛生管理基準の遵守状況や埋却地の確保状況等も併せて報告してください。

畜種	飼養頭羽数
牛・水牛・馬	2頭以上
鹿・めん羊・山羊・豚・いのしし	6頭以上
鶏・あひる・うずら・きじ・ほろほろ鳥・七面鳥	100羽以上
だちょう	10羽以上

【提出期限】

①牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし

→**令和7年4月15日まで**

②鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥

→**令和7年6月15日まで**

【提出先】

以下のいずれかに提出してください。

・中央家畜保健衛生所

石川郡玉川村大字岩法寺字新屋敷114-12

FAX 0247-57-6144

(表裏両面ありますので、FAXの場合はご注意ください)

・各市町村 畜産担当課

・所属している組合や畜産団体

ランピースキン病が国内で発生

令和6年11月に国内で初めてランピースキン病の発生が確認されました。令和7年1月17日現在で福岡県19農場、熊本県3農場において疑症含め累計229頭が発症し、自主淘汰又は治癒により現在発症している牛はいません。福岡県では、まん延防止のため、1月10日までに発生農場周辺の111戸4,352頭にワクチンを接種しています。地域でのまん延を防ぎ畜産経営への影響を最小限に抑えるため、健康観察による早期発見、吸血昆虫を減らすなど、まん延防止対策をお願いします。

01 ランピースキン病とは

特性 発熱、乳量の低下、皮膚に病変(結節)が生じる牛の病気
人には感染せず、畜産物の食用も安全

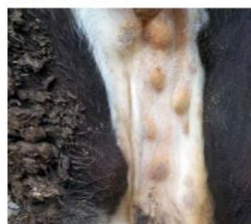
予防・治療 致死率は低く、ほとんどの牛が徐々に回復する
有効なワクチンで発症予防できる

伝播経路 主にサシバエ等の**吸血昆虫**を介して拡大
感染牛や車両、資材、人の移動でも拡大

影響 発症牛の生乳出荷や移動の自粛



結節（全身性）



結節



結節

写真提供：FAO、State Central Veterinary Laboratory in Mongolia

! 疑わしい症状を見つけたら、すぐに獣医師又は
家畜衛生保健所に連絡ください

02 生乳出荷・牛移動の自粛をお願いします

STOP 生乳の出荷

- 発症牛の生乳の出荷を自粛
- 非発症牛(同居牛)の生乳は出荷可能



STOP 牛の移動

- 発生農場からの牛の移動を自粛※1
- ワクチン接種牛は個別に自粛解除(下記参照)



ワクチン接種や発症から一定期間経過すると**自粛が解除**されます

発症牛：判定日から28日目より後に行う検査※2により陰性を確認

同居牛：農場内で最後に発症した牛の判定日から28日目より後に行う臨床検査で陰性を確認

ワクチン接種牛：接種から3週間経過後、臨床症状がないこと

※1：非発症牛(同居牛)のと畜場への出荷は可能 ※2：原則として血液による抗原検査、他の農場や家畜市場に移動する場合は皮膚による抗原検査

03 対策

✓ 早期発見とまん延防止（発生してしまった場合の緊急対策）

- 日頃の健康観察により**早期発見**し、発症牛の速やかな**自主淘汰**で発生源を断つとともに、発症牛の生乳出荷や発生農場の牛の家畜市場等への移動を**自粛**してください（病変が現れる前に発熱が見られることが多い）
- 面的に拡大してしまった場合は、速やかな**ワクチン接種**をお願いします

✓ 発生予防（発生を未然に防ぐための対策）

- 農場の**吸血昆虫を減らす**※3対策をお願いします
 - ・窓や出入口に防虫ネットを設置する、殺虫剤をローテーション散布する（成虫対策）
 - ・牛房の隅など牛が踏みつけない場所などにIGR剤を散布する（幼虫対策）
 - ・サンバエは牛舎周辺の雑草で休憩するため、雑草を刈る
- 農場間で**ウイルスを伝播しない**対策をお願いします
 - ・寒い時期はハエが暖かい車両に集まるため、車両内外の洗浄、殺虫をする
 - ・搬入出する牧草などにハエが潜んでいないか、確認する

※3: 特に、農場を中心に生活するサンバエへの対策が重要。福岡県の発生農場では、サンバエの少ない農場内では感染拡大が抑えられていました。なお、特に冬前のハエ1匹は**来シーズンの1万匹**に相当すると言われるほど対策が重要です。



写真提供：住化エンパイロメンタルサイエンス(株)

04 支援策

01 まん延防止・ワクチン接種の推進

- 発症牛や発生農場由来牛を自主淘汰した場合の**再導入**への支援
- 出荷自粛中の生乳の適切な廃棄処分に係る費用への支援
- 農場の消毒や**吸血昆虫**対策への支援
- ワクチンの**無償配布**※4
- ワクチン接種の影響に関するリスクコミュニケーション
- ワクチン接種県（福岡県）からの輸入を一時停止した米国との協議を継続

02 経営支援

- 日本政策金融公庫の農林水産業セーフティネット資金の円滑な融通、公庫支店に相談窓口を設置
- 国から飼料関係団体に対する飼料代金の支払猶予の要請
- 円滑な生乳の出荷再開に向けた検査体制の整備
- 子牛の引き取り先・販路確保に向けた関係者間の調整

※4: JRA畜産振興事業により日本動物用医薬品協会が配布

05 ワクチンの効果

- ランピースキン病には**発症を予防できる**有効、安全なワクチンがあります

有効性

- ✓ 韓国では全頭へのワクチン接種※5以降、発生件数が**大幅減**
- ✓ 撲滅のために**最も有効なツール**として国際機関が推奨

安全性

- ✓ 海外で15年以上にわたり約3,000万ドーズ以上が使用され、重篤な副反応はほぼない
- ✓ 副反応として一時的な乳量減少や注射部位の腫れ、皮膚の結節等が見られるが、通常は自然に消失する
- ✓ ワクチン接種牛の肉を食べることによる健康リスクは無視できる程度

- 国内ではMSD Animal Health社のワクチンを備蓄中

ワクチン接種完了前後のLSD発生状況(韓国)

発生期間		発生件数
接種完了前 (2023年)	33日間 (10/19-11/20)	107件
接種完了後 (2024年)	120日間 (8/12-12/9)	23件

※5: MSD社など3種類を使用し、2023年11月20日に接種完了。その後1年ごとに全頭接種継続

令和7年2月の定期報告より 電子申請も利用可能になります

今回の定期報告より、飼養衛生ポータル上で電子申請が利用可能になります。電子化後には過去の履歴を引用して報告書を作成できるようになります。従来の紙ベースによる提出も引き続き利用可能であり、電子申請を義務づけるものではありません。

電子申請をご希望の場合は以下の手順で申請してください。

1 GビズIDの取得

まず、利用に必要な農林水産省共通申請サービスのアカウントを取得します。アカウント取得についてはデジタル庁HP（<https://gbiz-id.go.jp/top/>、または二次元バーコード①）を参照してください。



2 飼養衛生ポータルへのアクセスとログイン

次に飼養衛生ポータルにアクセスします
（<https://www.rearing-hygiene.maff.go.jp/login>、または二次元バーコード②）。



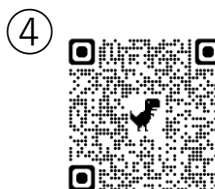
3 農場台帳の登録

農場の情報（氏名や名称、所在地、畜種など）を登録します。詳細な利用方法は農林水産省Youtube（二次元バーコード③）を参照してください。



4 定期報告の申請

農場台帳に登録した情報のほか、飼養衛生管理基準の自己点検を入力します。詳細な利用方法は農林水産省Youtube（二次元バーコード④）を参照してください。



※飼養衛生ポータルへのアクセスや農場台帳の登録、定期報告の申請でお困りの場合は下記コールセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

飼養衛生ポータルコールセンター TEL：050-3501-7060
（営業時間09:30-17:30 平日のみ）